

第4回懇談会における意見一覧

No.	会議体	主な分野・該当箇所	発言者	ご意見・お考え（次期計画への検討事項）
1	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	事業継続計画（BCP）の策定が重要であると考えているが、中小企業におけるBCP策定率は15%程度である。市から積極的に推進いただきたい。
2	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	八王子市は交通の要衝であるが、災害発生後においては、特に、物流機能が重要である。物流機能のシステム構築を進める必要がある。
3	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	東京都立大学教授 市古太郎 氏	個々の企業のBCP策定のみが目的ではなく、地域全体の産業回復という観点を入れることで、BCPの活用支援における市の取組も広がるのではないかと考えている。
4	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「多様な連携」の主体は、町会・自治会や自主防災組織のみでよいのか。それに加えて、市民レベルのネットワークも発生しており、災害時の重要な主体ではないかと考えている。
5	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	レジリエントなまちづくりを実現するためには、コミュニティが生き延びることが重要である。そのためには、新たなつながりや連携を構築するのか、今ある町会・自治会を強化していくか、2通りの方法がある。それを踏まえて一言追記いただきたい。
6	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	背景に「高齢者をはじめとする災害弱者（災害時要援護者）への対応の必要性の高まり」とあるが、それに対応した実現に向けた方向性を記載してはどうか。
7	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	背景、実現に向けた方向性にそれぞれ「自助・互助・共助」とあるが、「公助」が含まれていないのはなぜか。
8	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑥	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	レジリエントという単語が何を意味しているかわからない人もいると思うので、「復興力」と記載してはどうか。
9	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	NPO法人八王子子ども劇場代表理事 浅野里恵子 氏	「誰でも」という表現が抜けていると感じる。バリアフリー化を進めていただきたい。
10	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	買い物難民が年々増えていると感じている。地域の方々各自に送迎サービスを実施している例もあり、今後は行政がそうした地域の力を育てていく必要があるのではないかと考えている。
11	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	背景に「カーシェアリングや駐車場マッチングサービスの広がり」という表現はあるが、実現に向けた方向性には対応する項目がない。
12	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	実現に向けた方向性の中には、「行きたいときに、行きたいところへ簡単にアクセスでき」に還元できないものも混在している。
13	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	買い物弱者は大きな問題のため、それに対する方向性を記載いただきたい。
14	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「実現に向けた方向性」は、姿⑦に対応する方向性として理解してしまうため、直接結びつかないものについては、別の部分で整理されるほうがよいのではないかと考えている。
15	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	買い物難民やバリアフリーがなされておらず、荷物を抱えて困っている人や生活上の課題を抱えた人に焦点を当てた表現がよいのではないかと考えている。
16	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿①～⑩	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	今後、姿①～⑩を再整理することはできないか。
17	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「実現に向けた方向性」では、利便性に留まらず、周辺市街地の回遊性や公共空間の賑わいの話が挙がっているが、テーマとして異なる印象を受ける。
18	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「実現に向けた方向性」のうち、「都市の集約化」が「コンパクト化の推進」と並列で表記されていることには違和感がある。
19	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	高齢者の運転免許返納の話があるが、交通アクセスの問題が十分解消されなければ、高齢者も返納しづらい。そういった要素が付け加わってもよい。
20	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑦	高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏	2040年を考えると、自動運転が相当に進んでいる可能性がある。それを踏まえ、実現に向けた方向性に挙げられている「公共交通システムの構築」「自動運転やMaaSなど先端技術」の要素について、姿⑦の文中でもより表記してよいのではないかと考えている。
21	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	人材育成の話が姿⑧の文言中に反映されていないことが気になっている。
22	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	明星大学教授 河合美香 氏	イノベーションという表現があるが、これは経済学で言う「持続的イノベーション」か「破壊的イノベーション」か。実現に向けた方向性では、既存企業の持続化の話に加え、新たな産業創出も記載されているが、より明確に表現できるとよい。
23	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「地域産業のイノベーション」は容易に実現できるものではない。
24	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	現行計画では「地域資源を活用する産業の振興」という施策があるが、今回の案では、地域のリソースを活かすという表現がないと感じた。明確に表現してもよいのではないかと考えている。
25	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿①～⑩	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	最終的な計画冊子において「背景」、「実現に向けた方向性」まで記載するとすると、過不足について批判を受けることになるのではないかと懸念している。説明文を整理する必要がある。
26	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏	地域で様々な活動をしている方々が今の案を見た場合、現在のそれらの活動が2030年、2040年にどのように繋がるかがよくわからないのではないかと懸念している。
27	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑧	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「便利で豊かな生活」とあるが、2040年に向けて我々は果たしてそれを求めているのか。高度経済成長期のモデルのように感じる。人口減少の中で、どのようにみんなで協力して持続可能な社会を構築するかが重要であり、そういったキャッチコピーの方がしっくり来るのではないかと考えている。
28	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	実現に向けた方向性の中で、「MICEの推進」とあるが、誘致は全国的にも難しい。そのためには、羽田空港から八王子、あるいは日本各地と八王子を結ぶ直通バス等の運行、大規模なバスターミナルの整備等、交通アクセスの利便性向上が重要ではないかと考えている。
29	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	下村麻子 氏	「お気に入りの」という表現に違和感がある。
30	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	下村麻子 氏	高尾山以外の八王子の魅力として、絹があるのではないかと考える。
31	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	下村麻子 氏	「世界が」という表現があるが、規模があまりにも大きすぎるのではないかと感じた。
32	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	2040年には、全市民が八王子市を大切に思うようになっていくことを意図した表現と考えている。「市民の誰もが」という表現を加えてはどうか。
33	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	そもそも魅力を「発信」する必要はあるのか。また、誰が発信するのか。
34	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	八王子市に対する愛着を実感することが課題であると考えている。
35	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	八王子のファンを増やす手段として、ふるさと納税で八王子を応援いただく方向もあるかと考える。それを記載することはできないか。
36	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	コロナ収束後に向けて、八王子市においても、八王子の魅力発信する仕組みを今から準備しておく必要がある。
37	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	下村麻子 氏	市民が姿⑨を見た場合に、「自分たちでもできる」「やってみよう」という最初の第一歩を踏み出しづらいのではないかと考える。できることのハードルを下げたほうがよいのではないかと考えている。
38	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	世界に行くのではなく、他地域との差別化も含めて検討する必要がある。
39	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑨	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	高尾山は単なる山ではなく、山岳信仰にも由来している。どこかで触れていただいてもよいと考える。
40	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏	「環境負荷ゼロ」の背景として「カーボンニュートラルを目指す」とある一方、実現に向けた方向性では「再生可能エネルギーの導入推進・普及」とあるが、姿や背景の表現に比して、トーンが低いのではないかと考えている。
41	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏	八王子市は今日でも全国でトップクラスのごみ分別を実施しているにもかかわらず、2040年の姿として、「3Rの推進」が掲げられていることについて違和感がある。
42	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	2040年に向けてゼロカーボンを実現する過程では、エネルギーの価格維持・安定供給との施策のバランスを図る必要がある。
43	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏	自然を壊すのも人間であるが、戻すのも人間であるということ、今の若い人たちに知らせる機会があるとよい。
44	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿①～⑩	法政大学教授 淵元初姫 氏	様々な取組の土台となり得る「市民の公共心の醸成」や「公共に対する我々市民の取組方」といった都市像をいかに考えて反映させるかという点が重要であると考える。姿においてこの点をどのように表現するか検討する必要があると感じる一方、「みんなで目指す2040年の姿」とあるが、「みんなで」については、全体を強調することによって強制にならないような配慮が必要である。
45	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	最近では3Rではなく、Refuse（リフューズ）も加わって4Rになっていると聞いている。
46	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	姿全体を見た場合に、相互の姿が環境の負荷を低減して自然と調和するという目標があるならば、姿⑩で現状掲げられている「便利」「豊かさ」という表現は控えたほうが良い。有機的に繋がりに、齟齬のない状態が理想である。
47	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩⑪	八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏	市民レベルでできることは入れないのか。近年、シェアリングサービスが活発化している中で、例えば、学校の学用品も共有・リサイクルを推進することが重要と考えるが、ここに入れられるのか。
48	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑩	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	実現に向けた方向性の中で、生活の場における環境意識について明記できないか。
49	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑪	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	高尾山は、三山一体として、インフラ整備を進めて、魅力を発信する必要がある。
50	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑪	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	農業の衰退について、プロダクトアウトではなく、マーケットインの考え方を広める人材の登用が必要である。
51	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑪	八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏	耕作放棄地の事業化に向けて補助・助言が今後必要である。
52	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑪	明星大学教授 河合美香 氏	2040年を見据えた場合、農業においてもデジタル化は必須である。ドローン等の先端技術の活用といった表現を付け加えることで、人口減少下における解決策の一つとなり得るのではないかと考えている。
53	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿⑪	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「都市農業」はそれぞれどういったものをイメージされているか。補足説明を入れてはどうか。
54	第4回懇談会	みんなで目指す2040年の姿①～⑩	拓殖大学教授 新田目夏実 氏	「みんなに」という表現が誰を指すのか、再考する必要がある。
55	第4回懇談会アンケート	みんなで目指す2040年の姿③⑦	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「姿3」の方向性にある「バリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」と重なる面があると考えている。物理的なバリアフリーは「姿7」に、意識、情報、制度面等のバリアフリーは「姿3」に整理した方が、課題と方向性を明確にできるのではないかと考えている。
56	第4回懇談会アンケート	みんなで目指す2040年の姿⑧	東京都立大学准教授 杉原陽子 氏	「より便利」であることが、果たして2040年に向けて目指すべき姿なのか疑問である。SDGsに見られるように、「便利さの追求」よりも「sustainability」を真剣に考えないといけない時代なので、「より便利で豊かな生活を享受」というより、「持続可能な社会をつくる」といった表現の方が「みんなで目指す2040年の姿」にマッチするのではないかと考えている。
57	第4回懇談会アンケート	みんなで目指す2040年の姿⑩	東京都立大学教授 市古太郎 氏	「学びや憩い、活動の場としてのみどりの活用」は趣旨がよく、わからない、八王子市緑の基本計画に関わらせていただいた経緯を踏まえると、「みどり」は「活用」するような「手段」ではなく、その保全・存在・管理そのものが「目的」であり「魅力そのもの」である、と、市内で活動されている団体は認識しているのではないかと考えている。その趣旨からすると「みず・みどりの環境が作り出す市民協働のさらなる展開」などが良いのではないかと考えている。